故　名誉員　元副会長　米元晋一氏をしのぶ

米元先生は山口県岩国の藩士で明治 36 年東京帝国大学土木工学科を卒業された。故中島先生の推薦にて東京市役所水道課に就職，多摩川の羽村方面に活躍，ついで土木課に転じ当時本邦里程の元標たる日本橋改築工事の現場主任として石造アーチの最後の恒久的橋梁を立派に架設された。明治 44 年には東京市の命により下水道施設とその実情視察のため約1ヵ年欧米各国を巡り大正3年下水道改良課長となり下谷浅草方面に着工，本邦においては最初の下水完全処理場ともいうべき三河島処理場の建設に当り新しい撒布濾床方式を採用完成された。また先生は雨水の流出量算定に合理式を採用された始祖である。大正6年には東大講師となり同 10 年まで下水道を講ぜられた。同年部下の責を負いて惜しくも，あっさり東京市を退職，その後は終世もっぱら上水道もしくは下水道の顧問としてあまねく全国数多の大小都市の技術を指導された。そのおもなるものを列挙すれば釧路市，横浜市，和歌山市，名古屋市，富山市，宇部市，宇都宮市，函館市，浜松市，四日市市，川崎市，長野市，秋田市，高崎市，足利市，一ノ宮市，鶴岡市，盛岡市，姫路市，徳山市，浦和市，広島市，岩国市，等々である。またその間先生の指導により多数の立派な上下水道の技術者が輩出し，東京市はもちろんその他の諸都市または会社等に活躍されている。先生はまた昭和 4 年衛生工業協会副会長，同8年土木学会副会長，同14年衛生工業協会会長，同年水道協会功労賞，同 21 年水道協会名誉会員，同 29 年土木学会名誉員に推薦された。

先生は夙に本邦下水道発達のきわめて微々たるを憂いて先に水道協会に下水道促進会議を設くるよう提案され最初にその議長に当られた。ついてこれが下水道促進委員会となりその努力が実を結んで昨年下水道5ヵ年計画が議会を通過し下水道今日の隆昌をもたらし，ついに本年4月，日本下水道協会が新しく発足するに至ったものである。先生は誠に本邦下水道の大先覚者で第一の功労者といって過言でない。さきに去る昭和 32 年9月水道人最初の保健文化賞を受け昭和 37 年には藍綬褒章を授けられたことは誠に当然のことであり，私は軽く勲一等に該当するものと信ずる。

先生は真に温厚篤実の紳士で名利にきわめて恬淡であった。学位など先生の行績の何か一つをまとめて提出さえすれば容易に通過するだろうとしばしばお勧めしたが先生はただ笑ってうなづくのみ，一時内務省で都市計画の事務を嘱託されたのでついに一生を無官の太夫で過された。かくて私はかげで大博士の尊称を奏ったものである。

私は特別の縁で長く先生の知遇を得た。まず東大で先生の跡をついで下水の講義をなし，また工学院土木科教務主任も同様であった。また関東の大地震にも偶然横浜市役所にてあい，死生をともにしたものである。ついで大正13年から約15年間名古屋市水道第3期拡張および下水道改良の顧問となり常に一緒に出張し，あるときは帰途東海道にて台風にあい沼津にて下車させられ，三階の宿屋にて夜中玄関の雨戸を他の客とともに押さえて倒潰を防ぎ，翌朝は御殿場線不通のため自動車をかり山中湖を経て大月に出で中央線によらんとしたが笹子トンネルの崩壊あり，さらに与瀬までとばせたが途中自動車が立往生し，先生とともに後押しをなしようやく与瀬駅にて夕方の終列車に間に合い帰京することができた。まったく昨日のことのように偲ばれる。昭和9年頃先生と私は土木学会の副会長であった。戦後先生はしばらく郷里から京都の山科に寓居されており，去る 27 年帰京されてから先生は鎌倉市坂ノ下に居を定められた。その後先生も日本上下水道設計KKの顧問となり永く毎金曜午後会社に会し板倉博士方と笹碁を楽しんで居った。一昨年末頃より先生は折々神経痛に悩まされ会社を休むこと多くなり食慾も減退され，君は健啖でよいと羨ましがられた。その後日を追うて栄養の吸収が悪くなりこの3月口内に故障を生じ4月には折々輸血のため鎌倉病院に入院された。私が去る天皇誕生日に先生を病院にお見舞した日に，ご令息が私の叙勲のことを先生にお話してあったので先生も大変に喜ばれた由，誠に有りがたいことである。また私は奥様方に去る4月 16 日名古屋市水道通水 50 周年祝賀式に杉戸市長の招待を受け参列して非常に優待され特別に功労者としてまっ先きに表彰され立派な記念品を頂いたことを話したところ，先生は終始にこにこして聞いて居られ，おって先生にも同じ表彰状と七宝の花瓶が届けられるはずと申し上げたところ先生には自分が直接お話しできないことを済まないと申された。果たして去る5月1日松見名古屋市水道局長が親しく先生の枕元に捧呈され先生のご生前に間に合い安心した。その後近親方々の手篤いご看病もその効なく5月 10 日朝，眠るがごとく安らかに満 85 才余りの天寿を全うされた。惜しみても余りあることである。謹て御冥福を祈る。

（名誉員　工博　草間　衛・記）